

2024年2月26日
株式会社三菱UFJ銀行

芙蓉総合リース株式会社と「サステナビリティ・リンク・ローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 はんざわ じゅんいち 半沢 淳一（以下、当行））は芙蓉総合リース株式会社（代表取締役社長 おだ ひろあき 織田 寛明（以下、同社））との間で、ローン・マーケット・アソシエーション^①（以下、LMA）等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した、「サステナビリティ・リンク・ローン」によるシンジケーション方式のタームローン契約（以下、本ローン）を締結いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローン原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンスターゲット（以下、SPT）を設定し、金利などの貸付条件とSPTに対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPT達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

【SPT】 本ローンにおいてはSPT達成状況に応じて利率が変化します。

- ① SPT充足判定日の直前の3月末日時点における、借入人の1年あたりのCO2削減貢献量が42万トン以上であること。
- ② SPT充足判定日の直前の3月末日時点における、借入人の単体の人材育成関連費用の比率が2021年度対比263%以上であること。

同社は、2022-2026年度の中期経営計画として「Fuyo Shared Value 2026」を策定し、「ひとの成長と対話を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現による持続的成長」をビジョンとして掲げました。同計画では、CSVの実践を通じて、社会課題の解決と企業価値の向上を同時に実現することとし、外部環境が大きく変化していく中で、力強く持続的に成長する企業グループを目指す方針を打ち出しています。また、同方針にて掲げた重要課題の実現に向けた取り組みを加速させるべく、サステナブルファイナンスによる資金調達拡大を目指すため、「サステナブル・ファイナンス・フレームワーク」（以下、同フレームワーク）を策定しており、同フレームワークに基づいてサステナビリティ・リンク・ローンによる資金調達を行うことを決定しました。

【本ローンの概要】

契約締結日	2024年2月26日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱UFJ銀行
組成金額	350億円
貸出人（五十音順）	株式会社足利銀行、株式会社沖縄銀行、 株式会社山陰合同銀行、株式会社八十二銀行、 株式会社三菱UFJ銀行

また、本ローンでは、株式会社日本格付研究所（JCR）より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠、設定したSPTの合理性について第三者意見を取得しています。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に 65 ヶ国以上約 800 機関が加盟。

以 上